

## 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2011 —— 人・スポーツ・未来 ——

全体テーマ：「生涯スポーツの新たな時代に向けて」～スポーツ立国戦略 スタート！～

●開催日・会場：平成23年2月3日（木）、横浜ロイヤルパークホテル（神奈川県横浜市）

●参加者

地方公共団体関係者、スポーツ・レクリエーション団体関係者、各種産業界関係者、体力づくり国民会議参加団体関係者、学識経験者、その他関係者 他（約1,300名）

●主催

文部科学省

生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会

日本体育協会/日本レクリエーション協会/日本体育施設協会/スポーツ安全協会/全国体育指導委員連合/スポーツ健康産業団体連合会/日本障害者スポーツ協会/健康・体力づくり事業財団/神奈川県教育委員会

●後援 体力づくり国民会議

### 第1分科会 テーマ:総合型地域スポーツクラブ

——教育機関等との連携が生み出す「自立」への可能性——

●コーディネーター

谷口勇一 氏

大分大学 准教授

元日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成委員会中央企画班員・九州ブロック地方企画班員

●パネリスト

中平稔人 氏

福岡県福津市立福間中学校教頭

元福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ振興課長/元日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成委員会九州ブロック地方企画班員

井上規之 氏

北海道 びふかスポーツクラブ コーディネーター

阿部篤志 氏

仙台大学講師

日本体育協会公認コーチ養成講習会講師



## 1. 子どもたちはスポーツとどのように出会うのか？

### ——タレントが眠る教育現場が抱えるジレンマと総合型クラブの役割——

■合った種目・良き指導者との出会いは、「偶然的」で「奇跡的」



中平稔人 氏

ト発掘・育成」にかかわりました。そして今は、直接子どもたちを指導する学校現場にいます。

子どもたちをスポーツに出会わせるのは、私たち大人だと思います。子どもが自然発生的にスポーツと出会うのではなく、良い出会い、良いお見合いをさせることで、子どもの心が育ち、その子どもたちが大人になった時に、次の子どもにスポーツの良さを伝えていく循環が生まれてくるのだらうと思います。

しかし、現状はそもそも自分に合った種目に出会うことが、偶然的で奇跡的な状況になっています。小学生は学校外で活動出来る場がありますが、中学生や高校生は、部活動がほとんどです。その部活動に休廃部が相次いでいます。良き指導者と出会うこともまた、偶然的で奇跡的です。福岡県が部活動の休廃部の理由を調査したところ、中学校では「顧問の異動」が43%もありました。子どもたちにとってはとても不幸なことです。

■学校では、やりたいスポーツを出来ない現状

福岡県タレント発掘事業に参加している子どもたちへ、「あなたが通っている学校に自分がやりたいと思っている種目があったか」とたずねました。「あった」と答えたのはわずか23%。クラブチームに所属しているが46%、活動のために越境せざるを得ないが11%、その他、部活動はあるけれど専門の指導者が不在で悩んでいるが14%、仕

方なく別の種目をやっているも6%います。

また、自分に合った種目と出会っても、既に時機を逸しているケースもあるようです。一貫した指導体制になっていないことも、大きな問題です。特待生で進学するような子どもを除き、ほとんどの中学生は8月の中体連大会で引退し、高校入試の4月まで部活動をせず、受験勉強に終始します。高校ではさらに早く、5月のインターハイ予選で負けてしまったら引退というケースもあるかと思えます。その間もスポーツを続けることが出来れば、もっとスムーズにトップを目指した活動が出来ると思えます。

このように、子どもたちのスポーツ環境にはたくさんの課題があります。そういった情報が、いまの学校現場やスポーツ指導の現場に提供されないというジレンマもあります。

■子どもたちにとって何が幸せか考えよう

私たち福岡中学校では、体育専科の教員を近隣の小学校に派遣しています。小学生のうちから、からだを動かすことの楽しさを教えに行っているのです。やはり子どもたちは、専門の先生から教えてもらったほうが楽しさも味わえますし、動きのコツも掴みやすいようです。小学校の先生からは「教え方のコツが分かった」という声も聞かれます。一方、中学校の教員側としても、「より丁寧な、分かりやすい言葉で説明したほうが良かった」と、自らの指導を振り返る機会となっているようで、双方にメリットがあると感じています。

総合型クラブにも助けてもらっています。学校の先生は教育のプロですから、「私たちがこの子どもたちを育てる」という気概を持っていて当然です。しかし、「あの人が教えたほうが子どものためになる」と思ったら、自分の給料を少し払ってでもその人を連れて来るのが、プロとしてやらなければならない仕事だ、と私は思います。

幸いなことに、私が通う学校の地域には総合型地域スポーツクラブがありました。そこで活動す

るトレーナーやコンディショニング・コーチの方  
にお願いして、学校へ指導に来てもらいました。  
子どもたちにとってハッピーなことですし、クラ  
ブにとっても市民権を得るための公益的な活動と  
して積極的に取り組んでもらっています。

### ■熱い想いを伝えて学校と連携を図る

**中平** 福岡県は外部指導者を活用している学校が  
90%を越えています。我々スポーツ指導に携わっ  
ている者が学校に頼まれて指導に行く機会とい  
うのは、これからどんどん増えてくるだろうと思  
っています。総合型地域スポーツクラブに対する私  
の期待としては、そういったところにどんどんア  
プローチしていくような動きを、ぜひやってほ  
しいということです。

**谷口** 中平先生は、以前は教育委員会で総合型ク  
ラブの育成にもかかわっておられました。総合型

地域スポーツクラブが学校と連携を図るうえで  
どんな動きが必要になってくるのでしょうか。

**中平** 総合型地域スポーツクラブはノウハウやマン  
パワーなどいろんな資源を持っています。クラ  
ブを立ち上げた時の想が一番の財産だろうと私  
は思います。このままではいけないとか、地域の  
スポーツ環境を何とか良くしたいという想いで  
す。そういう人に学校の実態を知ってもらうとい  
う作業が、学校側としてまず必要だろうと思  
います。クラブとしては、「私たちはこんなクラブ  
なんです」と、ぜひ学校に伝えてほしい。何と  
か我が町に住んでいる子どもたちのスポーツの  
未来をハッピーにしたいというような熱い想  
いが伝わってくれば、学校は絶対にクラブと  
連携すると考えています。

## 2. 総合型クラブの機能性を高める“ネットワーク”のつくり方

——新たな時代(協働社会)の可能性を切り拓く総合型クラブをめざして——

### ■オリンピック選手を出そう！



#### **井上規之 氏**

美深町は、旭川と稚内の  
ほぼ中間、旭川から約  
100kmのところにあります。  
人口は約5,000人で、高齢  
者率が34.8%と少子高齢  
化が進んでいる町です。町  
には、認定子ども園が1園、  
小学校が1校、中学校が1  
校、小中併地校が1校で小  
学生が233人、中学生が139人います。その他高校  
が1校、特別支援学校が1校あります。

子どものスポーツクラブには、現在399人の会員  
がいます。大人たちの活動もありますが、特に子  
どもたちの活動を主に置いてあります。リトルキ  
ッズ、ジュニア、一般成人といった年代別のクラ  
スに分けて、それぞれメニューを考えてプログラ  
ムを提供したり、あとは異年齢で交流したりとい

う内容です。

現在、私は札幌に住んでいます。美深町は、私  
にとって生まれ育ったふるさとです。平成17年に  
美深町で始まったタレント発掘・育成事業にか  
かわったことがきっかけとなり、その後もスポ  
ーツクラブの設立やスポーツを通じたまちづく  
りのお手伝いをさせていただいております。

私のスポーツクラブへの想いは「スポーツで  
ふるさと美深町を元気にしたい」のほか、「粋な  
スポーツクラブを作りたい」、「オリンピック選  
手を輩出したい」の3つです。これはクラブ関  
係者共通の想いでもあります。

### ■外部とクラブをつなぎ、外からの目線でアイデアをだす

私は美深町ではなく札幌に住んでいるので、  
外部とクラブを積極的につないでいくこと、  
またクラブの活動を外部に発信していく役  
割を務めてい

ます。もう一つはアイデアを出すこと。どうしても町の中にいると見えなかったことが、逆に私が外に出て見えてきたり、また研修会や会議で人と出会った時に何かヒントをもらったことなどを、地域の人分かりやすい言葉に置き換えながらアイデアにしていくことを心掛けています。

クラブの特徴としては2つの大学と連携していることです。相互協力協定をしっかりと結んで、一緒に出来るものを考えていきましょうという形で進めています。毎年小中学生の新体力テストを行い、その結果を北海道教育大学に分析をお願いしてプログラムを考えていただいたり、指導者の研修をしていただいたりしています。学生さんを派遣してもらい、その学生さんがスポーツを教えながら勉強を教えることもあります。また、仙台大学とは新たなスポーツ機会を子どもたちにたくさん与えたいということで、「こどもスポーツ大学」という取り組みを行っています。仙台大学の前田さんという大学院生を1年間、びふかスポーツクラブのほうに派遣していただき、サブマネジャーという仕事をいただいています。

### ■独自のプログラム開発や、5つの町による補完体制づくり

私どもではスポーツアドバイザーとして外部の専門家の先生方を10名委嘱し、現在、様々な分野からいろいろご意見をいただく機会を作っています。さらに国の機関とは、タレント発掘・育成事業の関連の中で、国立スポーツ科学センターからイギリスやオーストラリアなどの子どもの体力向上に係る海外の事例を情報提供していただき、それらを参考にスポーツクラブ独自の体力向上プログラム「スポチニティー」を作成しています。現在では、80ものプログラムが作成されています。

美深町で声かけをし、5つの町がそれぞれに足りないところを補いながらスポーツ環境を整えたり、スポーツプログラムを提供しましょうという思いが一致して、5つの町が一つとなり〈上川北部広域

スポーツクラブ〉を立ち上げました。ちなみに、ここに音威子府（おといねっぶ）村は、実際に人口が900人ほどしかいません。そのような町でクラブを独自で立ち上げるのはなかなか難しいので、それであれば近隣の町がそこを補いながら一緒に何か出来ないだろうかということで、スタートしました。

### ■オリンピック出場選手を町で雇用

**井上** 美深町はトランポリンが盛んな町です。トランポリンからエアリアルというスキー種目ですが、そのオリンピック選手をクラブから輩出したというコンセプトもあります。現在大学生ですが、ここで発掘されてW杯まで出られるような選手も出てきました。専門的な部分になるとなかなか指導が出来ないということで、特にエアリアル関係でトリノオリンピックに出場した選手を町で雇用して、クラブの指導、またはスキーの指導、町のスポーツ振興、もしくは総合型地域スポーツクラブの活動の中で指導者として活躍いただいています。

**谷口** 様々な関係を作ってこられましたが、つながりを作る中でどんな楽しさ、喜びがあったでしょうか。逆に苦しさは。

**井上** 楽しさで言えば、いろいろな人とつながるという出会いですね。出会いがあつて新しいことが生まれてという形で非常に楽しくやっています。辛さと言うと、どこのクラブでも課題は多いと思いますが、例えばお金の問題、人の問題と色々な問題があります。そこを何とか頑張りながらやっていくところの苦しみはありますが、最終的には苦しみを皆さんで解決していく楽しさ、喜びに変わっていきます。



谷口勇一 氏

### 3. 総合型クラブにおける人的資源の還流・循環を促すシステムづくり ——大学と総合型クラブの連携協力関係の構築をめざして——

#### ■10代のアスリート教育の国際的な流れ



大学の使命は人を育てることです。学生が卒業する時に何が出来るようになるか、ということをおたちらは日々問われて仕事をしています。しかし、それは大学の中だけで出来ることではなくて、やはり社会との相対的な関係の中

#### 阿部篤志 氏

で大学が果たしていかなくてはならない使命です。これは地域社会との連携協力なくしては出来ない時代が、今来ているということが言えると思います。

去年の12月、南アフリカで国際オリンピック委員会（IOC）とユネスコ（国連）が共催し、第7回のスポーツ・教育・文化に関する国際会議が行われました。この会議の趣旨は、スポーツと教育と文化をいかに融合して様々な問題を解決していくかということをお話し合うことでした。

この国際会議でメインピックスになっていたものが、第1回のユースオリンピック競技大会でした。2010年8月、シンガポールで行われた新しいオリンピックです。14～18歳のアスリート対象に行われました。このユースオリンピックでの重要な取り組みは、文化・教育プログラムです。

これはアスリートの滞在期間中に、自分が競技に出していない時間を使って様々なプログラムを受講することを義務付けたものです。例えば、HIVについてディスカッションをする。アスリートたちがセルゲイ・ブブカと話をすることで、いわゆるロールモデルに対する意識、目指す姿について考えていく。また、世界の多様性を知り受け入れることを学んだり、屋外に出て行って環境について考えたり、試合のない日に離島に行って一日他の国から来たアスリートと一緒に生活をしながら、チームワークやコミュニケー

ションの重要性を学ぶ。そういったスポーツを通じて得られた場や機会を活かして若いアスリートの教育を考えていこうという流れが、オリンピックの文脈の中で動き始めているところです。その会議で話を聞いて、私たちの大学で出来ることは何なのかと私は考えました。

#### ■町との相互協力協定による「こどもスポーツ大学」等の活動

たまたま美深町の井上さんと私たちのスタッフが、子どもの体力向上もそうですし、あるいは、様々なことをスポーツを通じて総合的に学ぶものを何か形に出来ないかという話から、1年ぐらいかかって具体化したものが「こどもスポーツ大学」です。この運営には、私たち大学の教員も学生も、スタッフとして同様にかかわります。また、例えば、食育のプログラムでは、地元で働いていらっしゃる方、子どもたちのお母さん、あるいはコックさんにも協力してもらいました。大学へのお任せではなく、「風の人」（大学）と「土の人」（地元）が一緒につくり上げるところに特長があります。

美深町で仕事をしている、私たちの大学の学生である前田君、彼は2つのキャップをかぶって仕事をしています。学内のスポーツ情報マスメディア研究所の研究スタッフとしてのキャップと、びふかスポーツクラブのサブマネージャーとしてのキャップ、この2つのキャップをかぶって在職派遣という形で仕事をしています。彼は美深町の職員としての立ち位置で美深町の中で動くということもありますし、研究スタッフの立場で研究所が持っている資源を活用しながらその地域の活動につなげていくということも出来ます。

こういった活動を持続可能にしていくために、仙台大学と美深町とで相互協力協定を結んで、そういった大きな枠組みを用意しながら、その箱の中でその時に必要なことをお互いに話し合いなが

らやっつていこう、お互いのニーズを分かり合いながらやっつていこうというのがこのモデルです。

### ■連携条件の1つ『理念の共有』は、話し合いのプロセスが不可欠

「連携」が今回のテーマです。「連携」で、私たちがすごく大事にしているのは、それぞれの組織、人がどういった理念を持ってスポーツにかかわろうとしているのかということです。ここをきちんとお互いに共有していくことで、はじめて持続可能な連携した取り組みをやっつていくことが出来るということを強く実感しています。「連携」が機能する1つの条件、これがこの「理念の共有」ということです。では「理念の共有」はどうすれば図ることが出来るのか。これはもうとにかく話すしかありません。ですから、私たちは様々な地域の方と連携させてもらっていますが、プログラムの合間の時間を使って次の活動についての話し合いを常に持つようにしています。

もう1つは、大学が持っている資源を皆さんに対

してどのように提供していくことが出来るのかということです。私たちは宮城県の中で「スポーツを考える会」というテーマを決めて会合を開いています。私たちの学長や宮城県サッカー協会の会長やメディアの人、それからNPOの人、総合型地域スポーツクラブ、先日は多賀城のスポーツクラブの方もたくさん参加されていました。それから教員、学生、こういったメンバーが集まり、思いを共有しながらとことん話をしました。

ここには、例えばナショナルチームのコーチも地域で働いているスポーツ少年団の先生方もいて、国体に出て行こうとしている選手もいれば、教育委員会の方もいる。総合型地域スポーツクラブの人に入ってもらったこともあります。一緒に何をするのかをゼロから議論をして積み上げていく。そういったプロセスを抜きにしては、やはり「連携」というのは出来ないんだなと感じているところです。

## コーディネーターのまとめ

**谷口** 私のインタビュー調査の中で、大分県のクラブマネージャーがこういうことを言いました。「最近、達観しましたよ。総合型地域スポーツクラブづくりには、答えがないんですよ。私たちはもちろん、行政、いや、日体協だって答えは持っていない。僕らのクラブこそが答えなんです。スポーツには結果という答えがあると思っていたのかもしれませんが、でも、過程、プロセス自体にも大きな意味があつて、そこに答えがあるのかもしれない。上手くいかないこと自体も楽しさの一つだと思えるようになったのかな」と。

連携をすること、それは自らを知る機会と言えるでしょう。連携は自分たちだけでは気づけないことに気づけます。つまり、自分たちだけで活動

している時には分からなかったことが、他の組織、他のクラブ、他の機関等と関係を持ち始めることによって「ああ、うちのクラブの強味はこのへんにあるのかもしれないな」とか、逆に「なるほど。うちには、ここが足りないのかも」とか、そんな現状認識、競争意識を見出すことになるかもしれません。

クラブ間ネットワークがキーワードの時代になろうとしています。たくさんの連携を施行したいと思うのです。そして我々はその中で、たくさんのことに「気づき」つつ、クラブの自立に向けた競争が出来ればと考えています。

以上

## ▼「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2011」報告書の全体はこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/event/pdf/event2011.pdf>